

	課題分析	授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語では、助詞や長音、拗音、促音などを正しく使って文を書くことや文章を読むこと、音読をすることが不十分で、基礎的・基本的な学習の定着に個人差がある。</li> <li>・算数では、問題場面を想像し、意味を理解して立式することが難しい。</li> <li>・最後まで話を聞き、大切なことを正確に聞き取ることに課題のある児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日記やノート指導で、正しい言葉を使って文を書くことができるようにする。</li> <li>・数量感覚がまだ身に付いていないので、具体物を用いたり、ICT機器を活用したりして、問題を正確に把握できるようにする。</li> <li>・自分の考えを発表したり、友達と交流したりする場を設定し、学習したことを活用する力を身に付けさせる。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平仮名、片仮名、新出漢字の定着が不十分であり、助詞や拗音、促音、撥音、長音などを正しく文章に用いることができない児童があり、自分の考えや出来事、思ったことや感じたことなどを文章で表現することに苦手意識をもっている。</li> <li>・基礎的、基本的な学習内容の定着に個人差がある。特に算数では、2割程度の児童は、既習の学習内容の定着が不十分であるため、新しい課題に対しても自分の考えをもつことが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語では、書くことだけに重きを置かず、読書の時間を十分に確保し、様々な文章に触れさせる。家庭と連携し、繰り返し復習することで、基礎的・基本的な読み書きや新出漢字の定着を図る。</li> <li>・算数ではTTによる授業を行い、T2の教員は理解が難しい児童の支援を行う。また、児童同士が自分の考えを伝え合ったり、助言をし合ったりする活動を設定し、数学的な見方や考え方を広げられるようにするとともに、自分の考えを、根拠をもって表現する力を身に付けさせる。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数では、個人差があるものの基礎的内容がほぼ定着している。特に、計算については、おおむね良好である。一方で、思考力・表現力などには、まだ課題のある児童がいる。算数で自分の考えを説明する場面では、相手に分かりやすく考えを伝えられない児童がいる。</li> <li>・各教科において、自分の考えを文章で書く場面で表現力が身に付いていない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数では、引き続き習熟度別学習を行いながら、今後も自分の考えを説明する機会を多く取っていく。グループの中で全員が発表する活動を通して、相手に分かりやすく説明することを意識付け、表現力を上げていく。</li> <li>・辞書を引く活動を多く取り入れ、言葉を豊かにする取り組みを増やす。</li> <li>・他教科においても、自分の考えを文章にする場面を多く取り入れ、友達の良い文章を紹介するなどしながら、表現力を身に付けさせる。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話す、書くなどの表現については、徐々に力を付けてきているが、受け答えが単語や短文になってしまい、要点をまとめて話すことが苦手な児童もいる。</li> <li>・基礎的・基本的な学習の定着には個人差がある。特に、漢字の習得場面で定着に差が見られる。</li> <li>・算数の学習内容の理解はおおむね満足な児童が多いものの、既習事項を用いて解決する思考力・判断力を問う問題に対して苦手な児童が目立つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語で筆者の伝えたいことや人物の心情を考えさせたり、考えを説明したりする機会を多く設定する。(二人組やグループでの交流から全体での話し合いへと広げる)</li> <li>・辞書を使い、漢字や言葉に興味をもち語彙を豊かにしていく。普段から文章の中で既習漢字を使わせるようにする。漢字を覚えることが困難な児童も確実に読むことができるようにする。</li> <li>・算数では、自己解決の場面で既習事項を活用して考えられるように板書、教室掲示、大型モニター等で提示する。考えを伝え合ったり教え合ったりする対話を十分に行い、考えや理解を深められるようにする。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な学力定着に関しては、個人差が大きい。下学年の内容に遡って復習させたい児童がいる。</li> <li>・自分の考えを説明したり、筋道を立てて考えたりすることに課題が見られる。</li> <li>・友達のを聞いて自分の考えを深めたり、対話・学び合いから理解を深めたりする場面において、積極的に考えを述べることができる児童と発言の少ない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態に応じて、個々に考える視点や振り返りの観点を示す。また、家庭と学力についての課題を共有し、個別の学習計画を立てていく。</li> <li>・考える手だてとなる既習事項を提示しておく。(板書、掲示、大型モニターの活用) タブレット端末を使って友達のを考えに触れられるようにすることで、考える意欲を損なわず、書くことに慣れさせる。</li> <li>・直接の交流も増やし、対話により分からないことを尋ねたり、自分には考えに触れたりして考えを深められるようにする。考えたことを話すことにも慣れさせる。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの教科でも、既習事項を関連付けて考えを広げたり深めたりすることが苦手な児童がいる。特に算数では、自力で課題解決することが苦手である。</li> <li>・自分の考えを話して表現することに自信がもてない児童がいる。</li> <li>・文章を書くときに、根拠を明確にしたり考えを詳しく、正確に書いたりすることができない児童がいる。</li> <li>・基礎的な学力定着に関しては、個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言する場面や文章を書く場面を意図的に多く設定する。友達と考えを交流したり、発表させたりする場面を増やし、自分の考えを説明することや話すこと自体に慣れさせる。</li> <li>・考える視点を具体的に提示したり、例示したりする。</li> <li>・考える手だてとなる既習事項を提示しておく。(板書、掲示、大型モニターの活用)</li> </ul>
専科	<ul style="list-style-type: none"> <li>【図工】材料や用具の扱いが多様になるにつれて、自分のつくりたいイメージに対して材料の取り入れ方や道具の扱いなどの技能面が追いつかない児童がいる。</li> <li>【音楽】歌唱、器楽共に技能の習得に課題があり、表現したいことを歌声や楽器の音色に結びつかず、表現がなかなか深まらない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【図工】ICT機器を使って、視覚的に材料や用具の特徴の理解を深める。ワークシートなどを使って、その題材に合った練習を本番前に行い、それらを生かしながら上手に扱えるように指導する。</li> <li>【音楽】表現したい思いや意図を明確にもたせ、試行錯誤の時間を多く取り、自分の演奏したい思いや意図から技能の習得につなげていく。</li> </ul>